

環境審議会（令和2年度第1回）顛末

日時 令和2年8月31日（月）13時30分～15時00分

場所 富良野市役所1階 大会議室

出席者 委員：有澤浩、家次敬介、高橋穰二、市村英規、大矢根史典、鎌田慶司、芝野伸策、
山崎省三、鎌田勲、泉正子、関澤博行、加藤寿宏（12名）

（欠席委員）：鎌田直人、石川芳、浜谷政之、佐藤里津江（4名）

事務局：富良野市市長 北猛俊、市民生活部長 山下俊明、環境課長 高橋秀文、
環境係長 西尾善行

1. 開会（進行：高橋課長）
2. 辞令交付
3. 市長挨拶
4. 正・副会長選任（会長：高橋委員、副会長：家次委員）
5. 議事（議長：高橋会長）

（1）「環境指標の達成状況」について

※事務局（西尾係長）より、資料1「管理指標の達成状況」について説明

委員からの質問・意見

有澤委員

富良野市の一般廃棄物排出量が年々増加傾向にあるが、何か事情があるのか。

高橋会長

事務局の説明では、富良野市の一人当たりごみ排出量の数値は北海道・全国より低いということだったが、北海道・全国ともに下降傾向にあるのに、富良野市は増加傾向にあるのはどういった理由か、という話かと思う。事務局いかがか。

事務局

ごみの排出量が増えているのではないかという御指摘だが、家庭からの排出については年々減少しているのだが、近年事業所から出るごみが増えてきている。状況を見ると、ここ数年観光客が非常に多く来ており、ホテルからのごみ排出量が増えている。また、以前は富良野市の施設で処理していなかった医療機関の非感染性廃棄物を、平成28年から受け入れており、年間120tほど排出量が増えている。それらの要因も重なり、全体的にはごみ排出量が若干増えている状況となっている。

高橋会長

ちなみにだが、今年度については、コロナによる外出自粛等によりごみの排出量が前年同月比で4割以上の減少となっている。これは富良野市に限らず全国的な傾向である。

加藤委員

河川のBODが100%を達成しているとなっているが、何か基準値があるのか。

事務局

毎年8つの河川について測定をしているが、それぞれの河川に環境基準が設定されている。

高橋会長

隔年で場所を変えながら水質調査をしており、河川には規模で決められた環境基準値がある。詳しくは環境白書をご覧ください。

高橋会長

それぞれの項目と目標値の立て方についての根拠を知りたい。また、次期計画では、現行計画から変える可能性はあるのか。

事務局

前回の目標の立て方は、当時の状況を把握しているわけではないが、環境基本計画では様々な分野を扱うため、状況を端的に把握できる指標を設定することが多くなっている。それを踏まえて、当時の審議会で審議いただき、このように設定されたものと理解している。

次期計画での目標の立て方については、基本的には現行計画の目標を踏まえて設定するが、時代が変わっている状況を踏まえ、より評価をしやすい指標を検討出来ればと考えている。しかし、状況を端的に表せる統計情報がないものも多いため、それらを踏まえて検討する予定である。

高橋会長

承知した。今の話については、例えば水洗化人口率について、目標値が95.61%と細かい数字設定であるため、その意図を知りたいというものであった。

(2)「施策の検証」の実施状況について

※事務局（西尾係長）より、資料2「施策の検証結果」について説明

委員からの質問・意見

特になし

(3)「環境情勢の動向」について

※事務局（西尾係長）より、資料3「環境情勢の動向などの整理」について説明

委員からの質問・意見

特になし

(4)「新たに位置付けが必要な施策内容案」について

※事務局（西尾係長）より、資料4-1「新たに位置付けが必要な施策内容案」、資料4-2「新たに位置付けを検討している施策内容案」について説明

委員からの質問・意見

芝野委員

浄化槽の整備の推進は、新しい施策の中に位置づけられないのか。

高橋会長

浄化槽の法改正とともに新規で追加するという話があったが、この資料4の中にはない、という話かと思う。事務局いかがか。

事務局

新規に位置付けが必要となる施策テーマではなく、資料2の施策（既存の施策）の中で、上下水道課が新規に追加したいという取り組みである。

高橋会長

生活環境の中に水環境の保全という項目があり、入るのであればこのあたりと思うが、ここで整理するというだけでよいか。

事務局

それでよい。

高橋会長

資源循環の部分にストックの維持管理・有効活用とあるが、ストックとはどういう意味か。

事務局

上下水道や廃棄物施設を含めた公共施設を、再配置や更新などで長寿命化や防災機能を向上させ、有効活用するということである。

高橋会長

施設等の長寿命化という意味でよろしいか。

事務局

それでよい。

鎌田委員

「人口減少に対するコンパクトシティ」という項目がある一方、「移住の拡充」という項目もある。うまくマッチしていないとも思うが、この辺りはどうなのか。

事務局

都市のコンパクト化は、都市機能を集約することで、都市のエネルギー利用等をできるだけ減らすという考え方がある。移住の拡充については、地域の環境や魅力を資源としてとらえ、より活用していこうという考え方である。

鎌田委員

コンパクトシティは、資源の最小化と考えてよいのか。

事務局

資源の最小化ではなく、都市が広がることにより増えてしまうエネルギー消費を抑制していく、という考え方となる。

(5)「アンケート調査票案」について

※事務局（西尾係長）より、資料5-1「市民アンケート票案」、資料5-2「中学生アンケート票案」、資料5-3「事業者アンケート票案」について説明

委員からの質問・意見

高橋会長

前回の中学生アンケートは2年生が対象であったが、今回は中学生の全員にしているのか。市内の中学生全員となれば、対象は何名となるのか。

事務局

中学生アンケートの対象は2年生のみとしている。

高橋会長

中学2年生は何名なのか。今回は回答が250件あったが、中学2年生だけで見ると減っているため、前回との差が大きくなるのではないか。

事務局

そこについては未確認である。

高橋会長

中学2年生に限定しては、回答数の集まりが少ない場合もあるので、そこも含めて検討いただきたい。

加藤委員

中学2年生に対して、例えば「有害物質等による地下水の汚染への対策」や「地下水のくみ上げ等による地盤沈下への対策」について聞いても、何のことか分からないと思う。そういった場合を想定して、わからないときのための選択肢を増やしてもいいのではないか。

事務局

御指摘の通りと思う。今回選択肢に入れなかったのは、CS分析というものを行う際、わからないという回答をした方が対象外となってしまうためである。そのあたりを分けて整理できればと思う。

高橋会長

問1にあるような「わからない」と、今の御意見のような「意味がわからない」といったことについては違うものと思うため、それを踏まえてご検討いただきたい。

有澤委員

中学生アンケート3ページ、問3②に「ハイケボタル」とあるが、「ハイケホタル」の誤字ではないか。

事務局

確認する。

6. 閉会